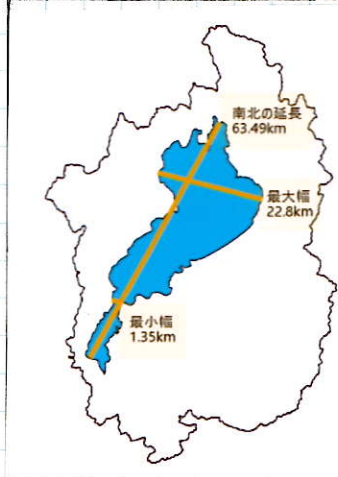


琵琶湖の大きさを

琵琶湖は、面積約670km²(県面積の6分の1)で日本最大の湖です。二の位は茨城県の霞ヶ浦で168km²です。日本では圧倒的な大きさですが、世界の中では、淡水湖のみで129番目、塩湖を含めると188番目の大きさです。ちなみに琵琶湖は約400万年前にでき、世界で三番目に古い湖だといわれています。



琵琶湖の生態系

琵琶湖には約1700種の動物、植物が生息しています。世界で琵琶湖にしか見られない固有種も多く存在しています。その数は現在確認されている中で66種類存在しています。琵琶湖には、毎年10万羽以上の水鳥が訪れ、水鳥の貴重な飛来地となっています。そのため、1993年にはラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)による日本でも数少ない登録湿地となりました。琵琶湖では近年、オオクチバスやブルーギル等の外来魚が入り込み、琵琶湖に住む生物の生活に大きな影響を与えています。そのため、つりあげた外来魚をリリース禁止にする「わが湖」が作られ、昔から琵琶湖に住んでいる魚を守る取り組みが行われています。

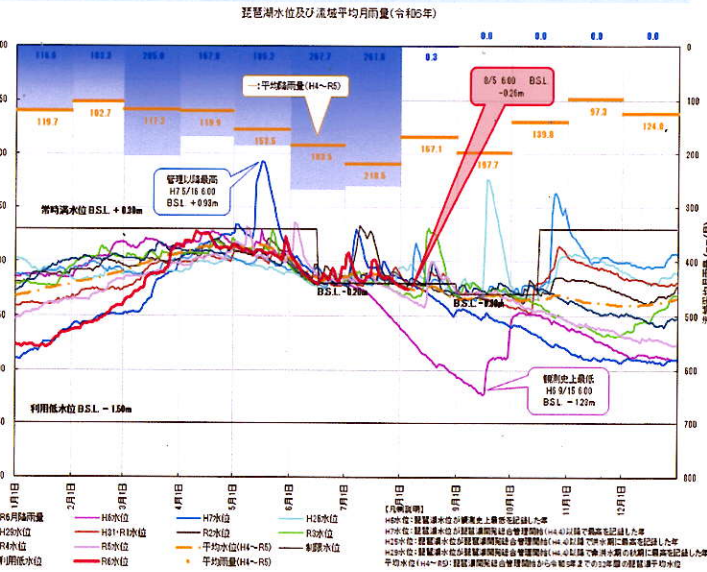


ノーリリース(再放流禁止)の魚たち

琵琶湖の水位

琵琶湖の水位は、2023年9月以降の少雨により低下し、2024年1月4日には、マイナスイシ7.8cmと大幅に水位が低下しました。そのため、18年ぶりに滋賀県治水対策本部が設置されました。その後の降雨等により3月7日にマイナスイシ2.8cmまで回復しました。

令和6年琵琶湖水位曲線



令和6年度水浴場水質調査で6月28日、県内主要な4ヶ所の水浴場について開設前の水質調査が完了した。

調査したのは近江舞子、松の浦、マキノサニールビーチ、宮ヶ浜の4ヶ所です。水質が特に良好な水浴場は水質Aと判定されたのは宮ヶ浜だけでした。近江舞子の浦、マキノサニールビーチは水質「A」と判定されました。



表-1 令和6年度水浴場水質調査結果表(開設前)

水浴場名	市名	水質	油膜	COD	透明度	pH	0-157	判定	総合判定	備考
松の浦	大津市	13 (2~21)	なし	2.3 (1.9~2.4)	>1	7.2 ~7.5	不検出	水質A	適	
近江舞子	大津市	7 (2~17)	なし	2.2 (1.9~2.4)	>1	7.3 ~7.5	不検出	水質A	適	
宮ヶ浜	近江八幡市	2 (2~2)	なし	2.4 (2.1~2.7)	>1	7.8 ~8.2	不検出	水質AA	適	
マキノサニールビーチ	高島市	2 (2~4)	なし	2.5 (2.0~3.1)	>1	7.9 ~8.0	不検出	水質A	適	

区分	ふん便性大腸菌群数	油膜の有無	COD	透明度
適	水質AA 不検出(検出下限2個/100mL)	油膜が認められない	3mg/L以下	全透(1m以上)
	水質A 100個/100mL以下	油膜が認められない	3mg/L以下	全透(1m以上)
可	水質B 400個/100mL以下	常時は油膜が認められない	5mg/L以下	1m未満~50cm以上
	水質C 1,000個/100mL以下	常時は油膜が認められない	8mg/L以下	1m未満~50cm以上
不適	1,000個/100mLを超えるもの	常時油膜が認められる	8mg/L超	50cm未満*

パリ五輪

パリ五輪では、トリアスロンの水泳競技等がセーヌ川で開催されました。セーヌ川は、水質悪化により1993年に水浴が禁止されました。1999年以降は環境規制などで状況が徐々に改善し、パリ市は「泳ぐ環境」を実現を五輪招致時のアピールポイントにしました。

長年、セーヌ川の水質悪化の原因となっていたのが、雨天等の増水時における下水の流入でした。セーヌ川にはパリ市内の汚水と雨水が同じ配管を通じて流れ込みます。そのため、大雨等で増水すると未処理の汚水がそのままセーヌ川に流れ込みます。

フランス政府は未処理排水が流入を防ぐ貯水地等を設け、水質の改善を進めてきました。国際トリアスロン連合の水質基準では、河川の場合、100ミリリットル以下の大腸菌数は1000個以下が大会実施地の判断基準です。

パリ五輪では、セーヌ川の水質が悪化して公式練習の中止や競技の延期がありました。しかし、31日に水質の改善が確認され、競技が予定通り行われました。しかし、出場後に選手から体調不良者が多く発生する事態となりました。原因は大腸菌の数が多くなっていたことと見られます。



琵琶湖の白

水中に溶けている窒素やリン等の栄養塩類が多い状況になることを富栄養化といいます。琵琶湖では富栄養化が進み、1977年5月に淡水赤潮が大規模に発生し、水道水の異臭・味障害、養魚場でのアユ、コイ等の死滅被害が発生しました。淡水赤潮の原因は、合成洗剤に含まれるリン、合成洗剤の使用を止めて粉石せっけんを使うことにより、合成洗剤の使用を止めて粉石せっけんを使うことにより、運動が起きました。それを石けん運動といっています。石けん運動の盛り上がりにより滋賀県は、1980年7月1日に全国に先駆けて、琵琶湖の富栄養化の原因となる窒素、リンの排出規制等を定めた「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(琵琶湖条例)を施行しました。その翌年、琵琶湖条例の施行一年を記念して、7月1日を「琵琶湖の日」と決定しました。この動きは滋賀県の環境政策の歴史に残る出来事であり、環境先進県といわれる所以でもあります。

マイクロプラスチック

マイクロプラスチックは、一般的に5mm以下の微細なプラスチックのことです。マイクロプラスチックの数は先進国の海で日本は多い方になります。そのマイクロプラスチックの日本近海の浮遊量は世界平均の二十七倍ととても多くなっています。



日本財団「海と日本のプロジェクト」の一環で琵琶湖と周辺河川で実施されました。調査結果によると、琵琶湖の6ヶ所の調査地点で検出されたマイクロプラスチックの平均個数は、1個当たり1個未満で日本近海の2.4個より少ないことがわかりました。滋賀県・琵琶湖保全再生課は、「生物や環境に影響が出る可能性は小さく、差し迫った危機は無い」としています。

マイクロプラスチックによる化学物質の吸着、濃縮の影響については科学的知見はほとんど見られませんが、外国からの漂着ゴミの多い琵琶湖なら、自分たちの取り組みでプラスチックゴミ問題の改善が図れます。

住宅地に近い湖南市祖父川では他の調査地点より多い2.95個見つかりました。家庭で使われていた洗濯バサミや庭のプランターなどのプラスチック製品が劣化、細分化して雨で川に流されたことが原因と考えられています。

生活の中で古くならぬまま放置されていたプラスチックがマイクロプラスチックになる可能性があるため、定期的な交換が必要でゴミ捨てしないうちも大切ですね。

僕は、琵琶湖は多くの人が使っている水の水源として役立っているのを知りました。そして琵琶湖に異変が起これば近くの住民が協力して活動していきなさいと思いましたが、僕も近くの川に行き掃除をしました。レジ袋や洗濯ばさみ、タバコなどが落ちていました。ゴミのほとんどがプラスチックでした。これらが琵琶湖に入り込んでマイクロプラスチックになるんだと思ひました。これからマイクロプラスチックを次世代に残さるようにならなければならないと感じました。